

令和3年度 県立伊奈特別支援学校 自己評価表

目指す学校像	◆子どもが笑顔 教員が笑顔 笑顔輝く学校 ◆生き生きと楽しく学べる学校 ◆安全・安心して生活できる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・「主体的な学びを育む授業づくり～目標と評価の一体化～」をテーマに授業研究を行い、特に自立活動の目標設定における流れ図の作成をとおして客観性と妥当性を高めた。引き続き自立活動に関する適切な目標設定や評価を進めるとともに、各教科における見方・考え方を働かせる授業実践を進め、児童生徒の学びの質を高めていく必要がある。	創意工夫のある授業の実践	①客観性を伴う実態把握(アセスメント)と適切な評価 ②自立活動の目標設定におけるプロセスの可視化 ③ICT機器を効果的に活用した教育の推進 ④教科の見方・考え方を押さえた目標設定と評価の充実 ⑤教員のキャリアアップを図る校内研修の充実	A
・校内外での体験的な学習や見学は見送りとなったが、作業学習の製品販売を保護者向けの受注方式としたり他学部の様子をオンラインで視聴したりして学習を行った。今後もカリキュラムマネジメントの視点に立った適切な教育課程の運用を進めるとともに、コロナ禍における現場実習の実施や小学部段階からの系統性を保ったキャリア教育の実践を行っていく必要がある。	自立と社会参加に即応した教育課程	⑥学習指導要領の目標を軸にした学習指導の充実 ⑦カリキュラム・マネジメントによる教育課程の充実 ⑧児童生徒の実態と各部の系統性を踏まえたキャリア教育の推進 ⑨小学部からの就労体験の確立(校外学習・体験等) ⑩外部専門家による指導の改善と専門性の向上	B
・新型コロナウイルス感染症対策のための手洗いや手指消毒、学級単位等の少人数指導が定着した。また、いじめの早期発見・対応のため実施したアンケートにより、児童生徒の心理的影響や行動面の変化についても把握でき、部や学年で対応した。引き続き新たな生活様式による学校生活や授業実践を行うとともに、いじめや体罰を見逃さない学校風土をより一層醸成していく必要がある。	健康で安全・安心な教育環境の整備	⑪新型コロナウイルス感染症への対応と緊急時等に即応したスキルの向上 ⑫いじめや体罰を見逃さない学校環境の構築と言語環境の整備 ⑬安全な登下校に向けた指導と体制整備 ⑭地域や関係機関と連携した防災体制の充実 ⑮食育教育の一層の充実	A
・来校相談や体験入学の際は授業体験や参観に替えて、スライドや動画等による個別の説明とし、学校間交流は直接的な交流から掲示物や美術作品の交換等に替えて継続した。今後はオンラインでの研修会実施等、相談支援の充実に努めるとともに、本校教育活動を公開・発信したり、ICT機器を効果的に活用した交流形態の検討を進めたりしていく必要がある。	地域に開かれた学校づくり	⑯地域の特別支援教育のセンターとしての相談支援の充実 ⑰間接交流やICT機器等の工夫による交流及び共同学習の実施 ⑱学校内外におけるスポーツ・文化活動の推進 ⑲学校教育活動の地域への公開及び情報発信 ⑳コロナウイルス対策を講じたPTA活動行事の実施	B
・会議資料や配付物の印刷等をスクールサポートスタッフへ分担し、教材研究や授業準備に費やす時間の確保に努め、放課後の諸会議においても、議題ごとに時間を割り振り、退勤時刻までの終了を概ね達成している。引き続き授業準備や校務をより効率良く行うための教材教具等のデータベース化や校務マニュアル・各種様式等の整備を進めていく必要がある。	働き方改革の推進	㉑スクールサポートスタッフの有効活用 ㉒会議の効率化や業務のスリム化等による退勤時間の遵守 ㉓教材教具等のデータベース化及びマニュアルの整備と有効活用	B

※評価基準(県教育委員会) A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

◆ 校務分掌 A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:概ね達成できている。 D:不十分である。 E:できていない。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
各教科・領域	日常生活・遊び 教材データベースを活用し、教材の保管場所の周知や教材教具の有効活用を促す。	・学期ごとに、各学部会で教材データベースの周知を行う。また、教材により保管場所が異なるため、定期的に教材の管理・整理整頓を行う。	④②	B	・学部会での周知よりも学校全体のデータベースでの共有の方がスムーズであった。
	生活単元・総合 教材データベースを活用し、教材教具の周知を行う。	・教材教具の整理や、所在確認などを年間2回程度行い、使用したいものがすぐに見つけられるようにする。	④②	B	・今年度、教材データベースの写真を追加したり、廃棄したものを教材データベースから削除したりして整理を行ったので、次年度は周知の仕方を検討していきたい。
	作業学習・職業 教材データベースを活用し、教材・教具の名称や使用方法など有効活用を促す。	・年間2回教材整理を行い、所在の確認や点検をする。老朽化している教材・教具に関しては、処分を検討する。教材・教具の写真や名称・使用方法を記載したラベルを保管場所付近に掲示していく。	④②	B	・教材の所在や老朽化の確認を行い、破損している物は処分を行った。各学部で使用する物が異なるため、係で検討し、今後も教材の整理整頓・ラベル作成を継続していきたい。
	国語・外国語 教材データベースを活用し、教材教具の有効活用を促す。漢字検定に積極的に取り組めるようにする。	・学期ごとに、各学部会で教材データベースの周知を行う。また、定期的に教材室の整理整頓を行い、必要な教材がすぐに見つかるようにしておく。・漢字検定に積極的に参加してもらえよう各学部全体で連携して取り組む。	④②	A	・年2回の教材の整理を行い、教材を有効に活用できるようにした。教材の一覧を作成し、より視覚的にわかりやすくしたい。学部や学年ごとに漢字検定について周知するために、各学部に担当を置き、連携して取り組めるようにする。
	算数・数学 貸出簿をファイル化することで貸し出し状況が把握しやすい環境に整える。	・教材教具ごとに貸出日、返却日等貸出情報を記載する貸出簿を作成し、過去の使用履歴が分かるようにファイル化する。	②	B	・作成した備品貸出簿を共有フォルダまたはTeams内のフォルダ(教員にとって、活用しやすい場所)に入れるなどし、周知していく必要がある。
	音楽 楽器の管理及びデータベースの整備を行い、教材教具の有効活用を促す。	・音楽室2ヶ所の楽器の割り振り(中学部で使用する楽器→中学部棟音楽室、小・高等部で使用する楽器→特別棟音楽室)を行う。 ・特別棟音楽室の楽器は、保管場所に写真を貼り、視覚的に分かりやすくする。 ・データベースを整備し、いなくNet等を活用して職員にも周知する。	⑧	B	・教材(楽器類)のデータベースの内容を充実させ、活用できるようにする。動画や音源などのデータの保存については検討し、有効活用できるようにする。
	図工・美術 全職員が簡単に教材の保管場所や使用方法を把握できる教材データベースを作成する。校内作品展示の充実を図るとともに、校外の作品展や公募に積極的に出品できるようにする。	・特別棟1階の教材室を7月までに整理して、教材を使いやすくする。9月までに絵画・版画・デザイン・工作・展示別に教材のデータベースを作成する。 ・校内における作品展示の充実を図る。校長室前の廊下をはじめ、管理棟や各部の昇降口、階段の踊り場等、常時展示する場所の設定や作品のローテーションを行う。また、ポスターの公募や校外作品展に出品するために、各学部・学年に積極的に取り組んでもらえるように依頼する。特に全国教育美術展に学校として作品を出品するために、各学部全体で取り組んでもらえるようにする。	⑧⑬②	A	・教材室の整理に関しては、古いものは破棄してスペースを確保していく必要がある。 ・作品展示はコロナ禍で分散して行っているが、展示の仕方や告知の仕方に工夫が必要。 ・公募ポスターや校外の作品展への出品を、アート部からも出品してもらい数を増やしていきたい。
	保健体育 教材の保管場所や使用方法を把握できるように、教材データベースを作成する。各保健体育科の行事の実施について、管理職、各担当と検討を行い、感染症や安全に留意して実施できるように共通理解を図る。	・年度初めに、各行事の担当を配置し、運営本部・主催の指示をうけ、管理職やチーフを中心に検討し、安全面や感染症対策について検討・計画を進め、企画運営を行うようにする。 ・各学部会で教材データベースの周知を行う。また、学期ごとに備品の整理整頓を行い、必要な教材がすぐ見つかるようにする。	⑧⑬②	B	・データベース化や教材整理を行い、教材を有効に活用することができた。また、各担当者を中心に、感染症に留意した行事(団体連等)を実施することができた。次年度は、より有効な活用を促すため教材の置き場を検討する必要がある。
	家庭 調理室や被服室、教材教具等の衛生的な利用について、校内への周知に努める。教材教具の保管場所を明確にし、教材教具の有効活用を促す。	・授業後の調理室の清掃の徹底や教材教具等の消毒などに関して、全職員で周知できるようアナウンスを行う。また、係で調理室や被服室の清掃や消毒、教材教具の整理を行う。 ・教材教具は保管場所に写真を掲示し、所在を明らかにする。	⑧⑪	B	・今年度、調理実習などが実施できなかったため全職員での周知は行わず係で消毒を行った。また、写真掲示ではなく貸出簿を設置し、教材教具の所在を明らかにした。今後、調理実習等が再開できる可能性もあるので引き続き、消毒等をして清潔に保つ必要がある。
	道徳 体系的な授業計画を立てていけるように、各学部の具体的授業内容を学校全体で共有する。	・各学年に道徳の授業での取り組みに関するアンケートを取り、学習指導要領の項目に振り分け、一覧にして学校全体で共有できるようにする。	⑧	B	・各部の授業内容を学習指導要領の観点別にまとめ共有できたが、一部の観点に偏った内容が多かった。様々な観点から道徳の授業を展開できるように今後もアンケートを行い、観点の違う授業例を蓄積し、共有していく。
自立活動 教材の保管庫を整理整頓し、保管されている教材をすぐに見つけて活用できるように環境を整える。	・保管している教材教具の名前や写真などを保管棚に掲示し、一目で何が保管されているか分かるように整理整頓を行う。	⑧②	B	・昨年度から引き継いだ教材の名前や写真のカードを活かして、点検や整理を行うことができた。一層分かりやすくするために写真・名前カードの貼り方や位置を工夫することが考えられる。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
教 務 部	企画係	児童生徒一人一人の資質・能力を育成し、将来の自立と社会参加につながる教育課程の運用と改善を行う。	・各部における教育課程の実施状況を把握するとともに、カリキュラムマネジメント推進委員会を中心に学年・学部における検討を計画的に行い、次年度以降の教育課程編成に向け見直しや改善を行う。	⑦	B	・学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、児童生徒の障害の重度化や多様化、人数増加に対応できるよう、教育課程の現状と課題を常に把握しながら編成していく必要がある。 ・ICTを活用した会議の短時間化や業務の効率化に継続的に取り組み、職員全体の働き方改革や定時退勤の定着を推進していく必要がある。
		放課後の会議の短時間化及び業務の効率化を行う。	・職員全体へ向けた連絡事項の伝達に「いなとくネット」の活用を進める。 ・各教科領域係と連携した教材教具のデータベース化やスクールサポートスタッフの活用により、授業準備や教材研究の時間確保を行う。	⑭⑲⑳	A	
	庶務係	諸帳簿の説明会などで挙げた質問事項を随時マニュアルに追加し、諸帳簿の適切な運用と管理を適正に行う。	・指導要録、出席簿、会計簿、修了証(出席等の状況)の記入についてのマニュアルを随時修正し、必要に応じて説明の場を設け、記入の仕方や管理等の周知を図る。	⑦	B	・諸帳簿に関する質問があった内容に対して、その都度返答したり、文書を作成し、係、学年主任、担当の先生方に周知することができた。今年度出た質問事項については、必要に応じて来年度のマニュアルに追記し、先生方が読みやすいマニュアルの作成に努める。会計については、年度初めの説明会で作成上のポイントを具体的に伝えられるように準備する。 ・備品管理については、年4回の計画で定期的に備品の個数を確認し、在庫の管理も行った。管理表を必要とときだけ係に提出するように変更したので、今後も継続していく。
		各教室の備品、清掃用具の確認を定期的実施し、管理を適正に行う。	・備品管理表と清掃用具管理表を作成し、年度初め、長期休暇、学年末に各教室の備品、清掃用具の配置数の確認、補充を行う。	⑦	A	
	図書係・教科書係	教科用図書の授業での活用を図る。	・授業で活用しやすい教科用図書を選定するとともに、年間2回活用状況のアンケートを実施し、結果をもとに活用事例を報告し、活用を促す。	⑥	B	・適切な選定手続きを行い、児童生徒がより活用しやすい教科用図書を選定することができた。年度末に活用状況を調査し、次年度の選定に生かしたい。候補本を揃える負担軽減のために、今後は図書の手続きで候補本となる図書を購入していく。 ・学校司書の配置が望ましい。また、図書に関するポスター等を掲示する場所が十分でないので、壁を汚さない機能のあるデュープを活用するなどして、掲示できる場所を増やしてほしい。
		児童生徒、職員の望ましい図書館利用を推進するとともに、図書室の再整備に伴い、図書の配架を再構築する。	・学期に1度程度、図書委員会(小・中・高)と連携し、お薦め図書の紹介等を行う。 ・図書委員会、職員間で連携し、図書室の整備を行う。	⑥	B	
	共同学習係及び交流係	学校間交流では、相手校とどのような形で交流ができるのか提案し、円滑な推進を図る。	・各学部で学校間交流の担当者を配置し、連絡相談、報告しやすくする。 ・コロナ禍での交流の在り方を提案する。	⑰	B	・計画案の様式を作成、周知したことで交流の計画が円滑に行われた。来年度も継続していきたい。 ・新型コロナウイルス感染症のため、直接交流が難しかったが、間接的に学校間交流や地域交流を実施することができた。今後も交流の在り方を検討していく必要がある。
		学校間交流・地域交流の理解啓発と推進を図る。	・事前打合せや事後報告を充実させ、本校の理解啓発を図る。 ・ホームページの更新や、行事の際のパネル作成を行う。	⑰⑲	A	
	若手教員等	初任者、2年次、3年次、中堅(前期・後期)研修者に対して、各研修の特性に応じた校内研修を実施し、教員としての資質及び指導力の向上を図る。	・全職員の協力を得ながら、校内・校外の研修計画に基づき、密に配慮し効率的に研修が行えるよう連絡調整する。 ・授業技術「ユニバーサル10の意識チェックシート」や授業の「基礎基本ブックのチェック」を活用し基礎的なスキルアップと意識作りを図る。	④⑤⑥	A	・コロナ禍で授業研究の日程など変更が多かったが、係で分担し、参観したり、適切に助言を行うことができた。ICTを含めて、授業で活用された教材教具などを職員全体で共有する機会を学期に1回程度作ってほしい。 ・研究協議ではマインドマップのまとめ方だけでは見やすさの点で難しさがあったので、もう少しシンプルな表のまとめ方を検討し、短時間で効果的なスタイルを考えていきたい。
			・授業後の研究協議で「マインドマップ」等を活用して成果と課題を見える化し、実践力向上につなげる。 ・年度末には「プレゼン観点チェックシート」を活用し成果等を伝える力を高める。	④⑥	A	
	現職教育係	感染予防に配慮しながら年3回以上の校研修を実施し、教員のスキル向上を図る。	・初めて特別支援教育に携わる職員に対して児童生徒とのかかわり方などについての研修会を若手教員研修と連携して2回行う。 ・サポートセンターと連携し、可能な時期にケース会議の研修会を2回行う。(1回目は支援方法の検討、2回目は支援をした結果の検討)	⑤	A	・初めて特別支援教育に携わる職員に対しての研修会を4月と11月に実施することができた。対象職員以外の方からも「話を聞きたかった」との意見があったので次年度は参加希望を募り、オンラインでも実施できるようにしていきたい。また、ケース会議も各学年で2回実施することができた。次年度も継続したい。 ・12月に人権研修を実施した。人権ポスター・メッセージの作品展は作品が集まらなかったため次年度は各学年の道徳の授業で作品展の製作をしてもらえるようにしたい。 ・特教研に関する事務処理や会議の企画、取りまとめ等係で分担して取り組むことができた。次年度は情報担当の方が係内に配置されることよい。
		人権に関する校内研修会を企画・実施し、職員の人権意識の向上を図る。また、児童生徒に対して人権ポスターや人権メッセージを募集し、校内の人権に関する意識を高める。	・夏季休業中に1回、人権に関する研修会を企画し、実施する。 ・児童生徒に人権についての理解を促し、人権ポスター、人権メッセージを募集して展覧する。	⑤	B	
特教研事務局として、特教研にかかわる連絡・調整、取りまとめ等を行う。		・特教研総会などの会議の企画・運営を行う。 ・必要な事務処理等を他校に依頼し、取りまとめる。 ・会計処理について説明し、会計簿のチェックを行う。	⑩	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
情報教育部	情報管理	校内ネットワーク、情報機器の適切な管理・整備を行うことで、校務の利便性と安全性の確保を図る(特教研事務局運営支援含む)。	・「機器環境」、「HP」、「データ管理」等、管理を分散化し、担当者を振り分けることによって、校内ネットワーク他、各種トラブルに柔軟に対処できるようにする。	⑱⑳	A	・教育用PCのリースアップに伴う校内ネットワークの設定変更、新型コロナウイルス感染症対策に伴うWeb教材他、各種情報配信やオンライン会議の支援、そして多くの教育機器の調整等、業務が大幅に増えたことにより、対応できる人員に仕事が偏ってしまった。 ・ICT活用推進係との業務内容の再調整を要する。また、習熟度別研修や動画型機器マニュアルの一層の拡充により、係内及び教職員全体のスキルアップを目指したい。
	ICT活用推進	年間10回程度の校内研修を行い、全職員がipadの基本操作を行えるようにする。	・自由参加型の校内研修を計画、実施し、基本操作から授業場面での活用について、実践例を交え紹介する。 ・サポートに入っている業者や他校との情報交換を行い、活用しやすい環境設定や端末設定を行う。	③⑤	A	・職員会議前の時間に研修の時間を設け、短時間の研修を10回以上行うことができた。短時間の研修のため、アフターフォローが難しい。研修を受けて、学校全体として使える人が増えていくというスタイルを確立していくことが課題である。
生徒指導部	生活指導係	いじめの未然防止、早期発見早期対応をする。	・児童生徒のいじめに対する理解を深めるための職員研修を年間2回以上行う。 ・いじめ防止に関するアンケートを実施し、その結果について学年・学部で情報共有することで、いじめに関する授業等にかかわることができるように体制を整える。	⑫	B	・いじめに関する授業等について、具体的な指導例を共有し、日々のいじめ防止教育にいかせるよう検討していきたい ・リモートや動画での研修や講義が多かったため、次年度は人数や場の環境に配慮しながら、できるだけ実践的な研修、授業等を計画、実施していきたい。
		感染症対策をしながら、必要な行事や研修会、授業の計画・実施をする。	・人数を縮小したり、リモートでの研修・講義を取り入れたりすることで、密にならないように配慮して計画し、安全に実施する。	⑪	A	
	通学指導係	スクールバスに係る連携を密に行うことで、感染症対策を含めた安心・安全かつ円滑な運行を目指す。	・係内や乗務員、担任などの関係職員と普段から連携を密にとり、諸問題が起きた際の早期対応や車内の換気・消毒による感染症予防に努める。また、学期1回の連絡協議会や添乗指導をとおして、路線や児童生徒の状況把握に努めるとともに、必要に応じて情報共有を行う。	⑪⑬	A	・概ね達成できたが、介助員が変わったり、休暇のため代わりの介助員が乗車したりした際に諸問題が多く出ることがあるため、今後も会社と連携しながら進めていく必要があると考える。 ・大きな事故はなく、安全に登下校できたが、自転車のトラブルが昨年度から続いているため、今後も自転車点検表を活用しての確認や生徒に向けて自転車点検の仕方についても画像や動画などを使用して指導していく必要がある。
		SB自力・自力通学生生に向けた定期的な安全指導を行う。	・普段の指導や緊急時の際に対応できるように、担任による経路等確認や係観察等を行う。また、毎月1回、自転車安全点検表をとおして安全指導及び家庭での自転車点検を促したり、係及び担任による安全指導を年間2～3回実施したりする。	⑬	B	
	特別活動係	情報の共有を図りながら、児童生徒会が主体的に活動できるようにする。	・報告や決定事項については書面で回覧し、業務の効率化を図る。また、児童生徒会役員の活動日を月に1度設定し、児童生徒集会やいなほ祭開閉会式の企画・運営について決定できる場を設ける。	⑧⑳	A	・年度によって児童生徒が入れ替わっても生徒が主体的に活動できるように、活動内容や支援方法を吟味していく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症対策をしながら生徒の提案を形を変えながらも実現できるように、活動内容や支援方法を考え実行していく必要がある。 ・オンラインによる集会等の実施に当たっては、通信環境が安定しないことを考慮して企画運営し、代替え手段なども準備する必要がある。
		児童生徒集会では、少人数体制での参加・活動ができるように実施形態を工夫し、感染症対策に努める。	・ICT機器を活用して集会等はリモートで行い、各教室にて動画やパワーポイントを視聴することで安全な環境で児童生徒集会が実施できるようにする。	③⑪	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
保健安全部	保健指導係	新型コロナウイルス感染症対策について、必要物品の整備や管理を行うとともに、基本的な予防対策について徹底できるように定期的に職員に周知する。	・定期的に、消毒液や使い捨て手袋等の消耗品の在庫の確認をしたり、学部会や職員会議等で基本的な対策について再確認するようにする。	⑪	A	・新型コロナウイルス感染症の感染状況(ステージ)に応じて基本的な対策の再確認の機会を設定し、その都度Teams等を活用して対応策を周知していきたい。 ・基本的な感染症対策を確認・徹底するため、学期に1回程度チェックリストに記入して提出してもらうようにしてしていきたい。 ・手洗いやマスクの着用については、今後もその必要性や適切な洗い方、付け方等の指導をしていく必要がある。 ・2回目の緊急時研修会については、想定を係で決めたり、方法等を工夫するなどして、学年(コース)で共通理解を図り有意義な研修にしていきたい。また、研修会の様子を動画に撮り、客観的に振り返られるようにしていく。
		児童生徒の体調急変時や事故等の緊急時における対応について、年間3回の研修会の立案と実施を行い、職員間での共通理解と迅速な連携、スキルアップを図れるようにする。	・緊急時研修会では、実際の場を想定し職員間で十分な話し合いをして計画書を作成できるように、実施内容や方法を具体的に説明する。	⑪	B	
	医療的ケア	医療的ケアと再調理が安全に実施できるように、教員に対しての実施マニュアルを作成する。	・看護職員が安全に医療的ケアを実施するために、教員がどのようにサポートするか、写真等を使いながらまとめる。	⑤②	B	・医療的ケアや再調理の手順等は、変更がある場合も多いため、作成したマニュアルを看護職員や担当者で共通理解の上、随時加除訂正を行っていく必要がある。また、作成したマニュアルを今度どのように活用していくかを検討していく。
			・同じ質の再調理が実施できるように写真を使いながら、分担の方法や再調理の手順についてまとめる。	⑤②		
	食育係	新型コロナウイルス感染症の情報や対策について計画的に児童生徒や職員に周知し食の安全に努める。	・給食準備や消毒等給食前後の対応について安全な給食体制を整理して周知の徹底を図る。	⑪⑮	A	・保健指導係と連携しながら食の安全に努め、新型コロナ感染症予防対策も適切に周知することができた。小学部の配膳運搬について学部で話し合い、さらに食の安全を徹底した運搬に変更することができた。来年度も継続して食の安全に努めていきたい。 ・食育キャンペーンや食育だよりの発行を計画通りに進めることができた。残食調査を実施し来年度からの主食を適切な提供量に変更することを決定できた。保健指導係と共有できる資料は整理していきたい。
		児童生徒や職員及び保護者に、食育キャンペーンの実施や食育だよりの発行を通して食の安全や栄養について周知して、食育の一層の充実を図り、残食を減らせるように努める。	・食育キャンペーンでは児童生徒の食への関心を高め、食育だよりの発行では職員や保護者に食の安全や栄養に関する情報を提供し本校での取組を知らせる。 ・児童生徒の残食、職員の残食を区別して調査する週を設定し、配膳量が適正か確認検討を試みる。	⑮	A	
	安全防災係	各種災害に備えた校内体制の確立を目指すとともに、関係機関と円滑な連携を図る。	・福祉避難所開設におけるマニュアルに沿って職員の役割を確認し、役割ごとに体制を確認する場を設ける。	⑬	B	・校務分掌ごとの役割や災害時の対応については、年度初めに確認することで担当ごとにシミュレーションをしたり、災害時に備えた意識してもらえらるきっかけになったりするので次年度の課題とした。 ・保管図については、災害に利用してもらえるように図に加えられると良いものなどを検討する必要がある。 ・コロナ禍ではあるが、関係機関と連携を強化するために意義のある研修や協議を行う必要がある。
			・備蓄や設備の保管図を作成し、職員に周知する。	⑭		
			・関係機関と情報交換の場を設け、災害時の連携体制の向上を図る。	⑬⑭		
	進路指導部	同窓会支援	同窓会活動の活性化を図り、同窓生とその保護者から信頼され開かれた学校づくりを目指す。	・同窓会役員との連携を密にするともに、役員会において前回の反省や課題点を互いに出し合い、次年度への同窓会に生かしていきたいよう役員会を支援する。	⑲	A
今後の卒業生の受け入れをスムーズにする関係づくりの一助として、福祉施設からの注文案内を円滑に行うことで、児童生徒が就労に向け、生き生きと楽しく学べる学校を目指す。			・施設関連販売の広報や周知を行い期日等の調整することで、販売をスムーズにできるようにする。	⑧	B	
進路支援係		近隣の福祉サービス事業所の内容や福祉サービスの仕組みについて、保護者や本人が卒業後の生活を具体的にイメージできるような情報発信を行う。	・福祉事業所ガイドブックの情報量を増やしたり、HPを使って写真・図等で示したりするとともに、進路だよりの内容の充実を図り、ニーズに応えられるようにする。	⑧	A	・HPでの発信は十分に充実させることができなかった。来年度は、HPに掲載する内容について、誰に向けての理解啓発か再考し、テーマを具体的に決める等、計画を整理する必要がある。 ・小集団の研修を実施する中で、進路に関する授業のアイデアを話し合うまでには至らなかった。来年度は、より授業に生かせる内容の研修を実施する。
	障害者雇用の現状や福祉制度についての職員の知識を高めるとともに、将来の社会生活を見据えた教育の理解と推進を図る。	・受け持ちの学年や経験年数等を考慮した小集団での研修の実施の他、将来の社会生活につながる授業のアイデアを積極的に提案し、進路指導の活性化を図る。	⑤⑧	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
学 習 推 進 部	研究・学習推進係	流れ図を活用し、自立活動の指導と密接な関連を図った各教科等の授業実践研究を行い、児童生徒の学びの質を高める授業実践を目指す。	・各学年、コースで対象児童生徒を1名選び、流れ図を作成することで優先課題や各教科で取り入れる自立活動の視点を職員間で共有する。自立活動の視点を取り入れた各教科等の授業実践を行い、RPDCAサイクルに基づいた授業の一層の充実を図る。	②④⑥	B	・毎月、計画通りに研修を実施したが、周知と研修内容の理解は個人差があった。学部研修の在り方(形態)の検討が必要。 ・流れ図の活用を目標に加えたことで、研究のテーマが各教科なのか自立活動なのかかわりにくくなってしまった。次年度は、自立活動の視点、つまり流れ図の活用については研究には含まず、他の分掌部や係での活用を提案していきたい。 ・個別の指導計画の保護者配付用の見本を学部1冊用意していたが、職員室内の体制が変わったため、学年1冊あった方がよい。 ・個別の指導計画作成マニュアルは学年1部配付していたが、各クラス1部あったほうがよい。
			・外部講師を招き、各教科の見方・考え方・身に付けたい力等について指導・助言を受ける。	⑤⑥⑩		
	個別の指導計画等の作成・配付や年間指導計画の作成について、全職員が円滑に行うことができるように、定期的な周知を行う。	・校内全体でS-M社会生活能力検査を実施し、客観性を伴う実態把握に努める。	①			
学 習 推 進 部	自立活動係	職員会議にて自立活動連携相談にあがった事例を共有することで、より多くの職員が自立活動の指導に汎用できるような情報を提供できるようにする。	・連携相談実施前後の担任とのやり取りを通して、自立活動係が対象児童生徒の実態把握を深めておくことで、外部専門家の来校時には、汎用しているような内容をお聞きし、自立活動の目標設定における背景要因の捉え方の幅を広げられるようにする。	②⑤⑩	A	・連携相談にあがった事例は個別性が高い。年度末や年度初めにアンケートを実施し、職員全体の困り感を把握した上で、実際の事例と比較・精査していく必要がある。 ・今年度の全体研修は感染症対策のために時期を延期したが、今後は夏季休業中に実施できると、より実践しやすいと考えている。また、今後も事前アンケート等で先生方の知りたい内容を把握した上で開催し、汎用性の高い研修にしていく必要がある。
			言語聴覚士による校内全体研修(オンライン)を開催することで、児童生徒のコミュニケーション力を育むためのアプローチ方法の蓄積を図る。	・児童生徒のコミュニケーション力を育むための指導について、事前に校内アンケートを行い、本校の担任のニーズを把握した上で自立活動における指導力向上のためのアプローチ方法等を研修できるようにする。	⑤⑩	
	文化推進係	スポーツや芸術文化に親しむ態度を育て、卒業後の余暇活動へとつなげていく。	・職員との交流試合等を設定したり、卒業生チームや地域のクラブ等の案内を配付したりする。	⑬	B	・職員と部活動生徒の交流試合を実施した。生徒たちから次の機会も設定してほしいという声が上がリ、競技に取り組む意欲向上につながった。卒業後に競技を続けるためにチーム探しを探索し始めた生徒も出てきたため、卒業後の活動の場について情報をさらに発信していくことが課題である。
渉外		PTA行事の運営と学校及び役員相互、地区幹事長、保護者と連携を図る。	・本部役員がPTA活動についての運営の内容検討を効率よく実施できるよう、SNSなどの情報手段を活用して情報の共有化を図る。 ・感染症予防対策を十分に行い、環境整備や役員会議など本部主催の行事を計画的に行っていく。	⑳	B	・新型コロナ感染症対策のため、PTAの行事がすべて中止となり、次年度以降行事の再開に向けて準備を進めてきたが、今まで通り実施することが困難となってきたため、行事の見直し、実施方法の検討が必要。
サ ボ ー ト セ ン タ ー	特別支援教育	(巡回教育相談) 支援の方向性や内容について適時検証し、依頼元校等のニーズに合った巡回相談を実施できるようにする。	・2名体制で出向き、複数の視点からの提案ができるよう努めるとともに、初回相談時に次回予約をとることにし、複数回の相談を実施する。	⑯	A	・CO連絡会でのケース検討や自立活動連携相談での外部専門家からの助言は有効だったので、次年度も継続したい。 ・個々の子どもに合った教育の場の選択についてどのように考えるのか、市教委や小中学校の先生方にさらに深くしていただけるよう年度当初に説明したり、児童生徒の学校見学に同行していただけるよう積極的にお誘いしたい。 ・学年だけで抱え込むことのないよう、校内支援の役割や活用の勧めを、定期的に運営委員会等で周知したい。 ・年度の早い時期に、学校紹介動画の配信をしていきたい。ホームページ上での一般公開が可能か検討したい。
		(校内支援) 支援の必要性が高いケースを把握し、ニーズに応じてスクールカウンセラーや通訳等を要請することにより、児童生徒・保護者へのスムーズな支援の提供と担任の負担軽減を図る。	・部主事・学年との連絡を密にし、支援が必要なケースの把握に努める。支援ニーズに応じてサポートセンターで対応したり、専門職の派遣を要請したりする。	①⑤②	B	
		(地域への情報発信) ホームページとブログによる特別支援教育に関する情報発信を継続的に行う。	・対外的な行事の予定や児童生徒の活動の様子については、タイムリーな情報発信ができるよう、各学部や校務分掌係と連携を密にする。	⑱	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
事務部	庶務	適正文書管理に努め、能率的な事務処理を図る。	・文書管理規定にもとづき、迅速適正に処理する。早急・重要な文書に迅速に対応する。		A	・文書管理規定にもとづき適正に管理できた。会計往復文書についても、報告等の遅延や漏れもなく対応できた。次年度も継続したい。
	会計	会計の適正、効率的執行に努める。	・研修会に参加し財務会計知識の習得に努める。 ・法令等に基づいた、適正な執行を行う。 ・予算執行は、計画的・効果的に経済性を考慮して執行する。		B	・今年度の財務会計研修は、事務室に大型テレビを配置し全員で研修を受けた。会計処理については概ね適正に行なわれているが、一部において過払いが発生し、戻入を行なう事案が発生した。次年度は、更に慎重な処理を心掛けたい。
	管施設	施設設備の良好な維持管理に努める。	・児童生徒の安全確保に努め、迅速な対応を心がける。 ・中期・長期的な展望をふまえた、計画的な整備をすすめる。	⑬	B	・専門業者や技術職員による迅速な修繕対応により安全確保はできている。突発的な修繕等の対応案件が頻発し、中長期的な整備が思うように進まないところがある。今後、主管課との連携も含め、検討の余地がある。
	給食	安全・安心な給食の提供に努める。	・衛生管理の向上のため、研修を実施して知識を習得し、作業の見直し、改善を図る。	⑮	B	次年度も外部の研修への参加や校内での研修を実施し、マニュアルや作業手順等を確認しながら、更なる衛生管理の向上を図りたい。

◆ 学部・学年 A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:概ね達成できている。 D:不十分である。 E:できていない。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
小学部	やってみようという気持ちを育みながら学習に向かう力を高められるよう、発達段階に応じた指導の充実に努める。	・興味・関心を生かした自主的、主体的な学習が促されるよう、実態把握に基づく教材の作成やICT機器の効果的な活用を目指し、個に応じた学習内容や方法を工夫していく。	①⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・やってみようという意欲の向上や学習内容のさらなる定着に向け、児童の実態や興味・関心の継続的な把握、ICT教材と具体的な操作を伴う自作教材の効果的併用とともに、ICTに関する職員のスキルアップを図り、授業づくりを充実させていく。 ・児童の実態に合った課題の設定ができるように、流れ図の作成と活用を継続し、児童の課題を客観的に捉えた具体的な目標設定をしていく。指導の手立てや評価方法を工夫し、課題に向かう意欲や自己肯定感を高められるようにしていく。 ・ICT機器を活用しながら学年、他学年との交流の内容や方法については継続的な工夫が必要である。また、あいさつや言葉遣いなどのかかわりも大切に、学習内容や学習形態を工夫し、対話的にかかわる力を育てるよう、個に応じた指導の充実に努める。 ・ICTの活用で会議の効率化を進められているが、学部会での協議では、予め学年で検討することで協議を深められるようにしていく。また、教材教具のデータベース化は継続して取り組み、教材作成の時間短縮につなげ、研修時間を確保し、働き方改革を進める。
	できたことに喜びをもつことができるよう、自分の課題を最後までやり遂げようとする意欲を育てる。	・自立活動の目標設定を行う流れ図などを利用して、児童の課題を明確にしながら、達成可能な目標設定に努め、成功体験や感謝される体験を重ねることで、自己肯定感を高められるようにする。	②⑥	A	
	身近な人と仲良く遊ぼうとする対話的なかかわりとおして、コミュニケーションの基礎的な力の育成を図る。	・個に応じたコミュニケーション手段の獲得を目指すとともに、ICT機器を活用しながら学年間や他学年との交流が図れるよう、感染症予防に配慮した学習形態を工夫していく。	③⑪	A	
	会議の効率化や教材教具等のデータベース化を進め、業務の改善を図りながら指導の充実に努める。	・会議の内容を報告と協議事項に分別し、あらかじめ時間配分を行いながら時間厳守で進行したり、教材の電子データの共有化を促進したりしていく。	⑫⑬	B	
小学部第1学年	発達段階に応じた学習を継続的にを行い、日常生活に必要な「知識・技能」の基礎を育てる。	・学習及び日常生活(手洗い、挨拶、食事、着替え等)等、家庭と情報を共有しながら個に応じた支援及びICT機器を活用し、支援にあたる。	①⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを授業等でスムーズに活用できるよう、さらに研修をする必要がある。 ・個に応じてがんばりカードなどを提示して、自分の目標と、できたことを賞賛してシールを貼っていくなど、児童も課題が分かり達成感をもてるようにして成功体験を積み重ねられるようにしたい。 ・他クラスの児童とかわる機会を作ることがあまりできなかったため、次年度は児童同士がかわる機会を増やせるようにしたい。 ・学校でできるようになったことを家庭でも挑戦・実践してもらえそうな情報の発信ができればいいと思う(できるようになったことを確実な力にできたらよい)。 ・各クラスでの教材や学習内容を学年会で共通理解をする機会を設定したが年間をおして定期的に共通理解できるとよい。
	成功体験を積み重ね、「やってみよう」という気持ちを引き出しながら、身のまわりのことを最後まで行おうとする意欲を育てる。	・少しの支援でできるような課題設定を行い、個に応じた評価及び、出来たことを可視化し、達成感のもてる授業づくりをする。	④⑧	A	
	教師や友だちと学習や遊びをおしてかかわり合いながら、人とのかかわりの基礎を育む。	・授業づくりについて学年会で話し合い、感覚遊びや体験的な学習を設定し、お互いの活動の様子に注目できるように、ICT機器を効果的に利用していく。	③⑨	B	
	学年会での効果的な運営を図り、児童の実態の共通理解、教材研究に努める。	・会議の協議事項は内容を事前に報告するとともに、資料は事前に配付することで効率的に進められるようにする。	⑫	B	
小学部第2学年	発達段階に応じた学習を継続的にを行い、「やってみよう」という気持ちを引き出し、日常生活に必要な「知識・技能」を育てる。	・チェックリストを活用したり、日常生活や学習場面での観察を丁寧に行ったりして、実態把握に努め、個に応じた教材教具を工夫する。	①⑧	A	<ul style="list-style-type: none"> ・太田ステージを参考にグルーピングをして課題別学習を行ったり、日常生活の場面では実態把握を行ってスモールステップで支援を行ってきたが、生活年齢も考慮しながら、次年度は、日常生活の場面ではより細かなところまで支援が行えるようにしていく。 ・今後も評価の場面でも可視化できる「頑張る表」と合わせてICT機器を取り入れていく。 ・教師とのやり取りの中でカード等を使った自己選択の機会を設けてきたことで、自分から何らかのサインを使って伝えようとする気持ちが育ってきている。次年度は友達とのかかわりも広がるように支援をしていく。 ・会議の効率化とともに、共通理解の必要なことについては丁寧に取り組んでいきたい。
	学習のまとめで、自分でできたこと、頑張ったことを振り返り、成功体験が積み重ねられるよう、段階を踏んで課題に取り組む意欲を育てる。	・実態に応じた課題をスモールステップで設定し、学習の振り返りでは、イラストやICT機器などを取り入れ、視覚的に分かりやすく示しながら、「できた」「うれしい」という経験を増やす。	③④⑥	A	
	学習や遊びをおして、自分から要求や意思を伝えたいという気持ちを高め、人とのかかわりの基礎を育む。	・話し言葉や文字と併せて写真やイラストなどを活用しながら、自己選択の機会を増やしたり、要求を引き出すような言葉かけの支援をしたりする。	①③⑧	B	
	学年会の効率化、教材教具のデータの共有化などを図り、指導に努める。	・協議事項の時間を決め円滑に進めるようにし、作成した教材の電子データを教科ごとに保存したりして共有化を図る。	⑫⑬	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
小学部第3学年	発達段階に応じた学習を継続的に、「やってみよう」「やってみよう」という気持ちを高めながら、日常生活に必要な知識・技能の基礎の定着を図る。	・観察やアセスメントなどをとおして個々の実態把握や特性の把握に努め、ICT機器等の視覚的な支援を活用しながら個に応じた学習支援を行う。	①⑧	A	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた教材や視覚的な支援を工夫し学習の定着を図るために、前年度からの引継ぎや年度初めの丁寧な観察で児童の実態の把握に努める。 また友達とのかかわりを広げたり、学習の理解を深めたりするために、活動に応じたグループを編成し、ICTを活用した学習だけでなく体験的な活動も併せて行う。 教員間で共通理解を図りながら児童の支援を行うために、児童の様子や指導方法などについて話し合ったり、動画などの記録を活用したりする。 高学年に向けてさらに自主性を育てるために、授業での学習の振り返りを丁寧に行い、友達や教師から称賛される機会を設ける。
	学習の振り返りや成功体験を積み重ね、できたことを喜び、最後までやり遂げようとする気持ちを育てる。	・スモールステップで課題設定をしたり、学習の振り返りの時間を設定するとともに、言葉だけでなく視覚的にも称賛することで頑張ったことを実感できるようにする。	④⑥	A	
	学習や遊びをとおして、小集団で友達と一緒に活動したり、自らかかわろうとする気持ちを育てたりしながら、多様なコミュニケーション手段の獲得を目指す。	・学級以外の小集団を形成し、写真やイラスト、タブレットなども活用しながら個に応じたコミュニケーション手段の獲得を目指す。	③⑧	A	
	学習活動の様子や評価についての共通理解や教材教具の共有化を図る。	・定期的に話し合いをしたり、作成した教材の電子データを教科ごとに保存したりして共有化を図る。	②③	B	
小学部第4学年	発達段階に応じた学習を継続的に、「やってみよう」という気持ちを高めながら日常生活に必要な知識・技能の習得を図る。	・チェックリストを活用したり、日常生活や学習場面での観察を丁寧に行ったりして実態把握に努め、個に応じた教材教具を工夫して指導する。	①⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じたグループ分けを行った。さらにその中でグルーピングし、個に応じた学習を引き続き行っていききたい。 係活動やがんばり表などを活用し、評価を可視化して成功体験や感謝される体験を重ねることができた。 個に応じた質問の仕方、教材教具の活用を行い、自分の意思を伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりすることができた。 学年会で各クラスの実態について共通理解を図ることができた。さらに日常的に情報や教材等の共有を図りたい。
	「よくできた」「がんばった」という達成感を感じることで、最後までやり遂げようとする意欲を育てる。	・児童の課題を明確にし、個に応じた手立てや言葉かけ、できたことの可視化などをし、成功体験や感謝される体験を重ねることで、自己肯定感を高められるようにする。	④⑥	A	
	学習や遊びを通して、集団を意識する気持ちや自分の意思を伝える力、相手の気持ちを感じる力を育む。	・話し言葉や文字と併せて写真やイラストなどを活用しながら自己選択の機会を増やしたり、要求を引き出すような言葉かけ、場の設定をしたりする。	③⑧	A	
	学年会での効果的な運営を図り、児童の実態の共通理解、教材研究に努める。	・学年内の情報の共有、共有フォルダー等を活用した教材教具の共有を行い、客観性を伴う指導や業務の効率化を図る。	②③	B	
小学部第5学年	発達段階に応じた継続的な指導を行い、日常生活の中で活かせる力を育てる。	実態把握を基に障害の状況や特性等に応じたICT機器の効果的な活用をし、各教科等の指導の充実に繋げる。	①③	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度同様、児童が機器に実際に触れながら教科学習を行い、操作に慣れるように支援していきたい。 定期的の実態把握をすることで、より詳細な実態を知り、授業内容の工夫につなげていきたい。 コミュニケーションの実態や課題に応じてグループわけをすることで、より個々に応じたコミュニケーション方法の獲得を目指していきたい。 学年会では議題の内容に応じて話し合う順番を変えたり、事前に回覧したりすることで、会議時間の短縮を図るよう努めたが、時間内に終わらせることが難しいときが多かったため、内容が多い時にはスタート時間を早める検討も必要である。
	「やってみよう」という気持ちを育むことができるよう、興味・関心を生かした授業内容の工夫に努める。	興味・関心を生かした活動内容を行うことで、自らやってみようと思う環境を設定する。	④⑥	A	
	人とかかわる楽しさ、大切さを感じることができるような体験を通して、コミュニケーション能力を高める。	個に応じたコミュニケーション方法を身につけ、教師や友達とのやりとりを繰り返しながら、コミュニケーション能力を高めることができるようにしていく。	④⑧	A	
	会議の効率化のため、協議事項を事前に回覧したり、共有したりすることで業務の改善を図り、教材作りの時間をとるよう努める。	協議事項を事前に回覧しておくことで、意見や考えを事前にまとめておき、会議時間の短縮を図る。	②③	B	
小学部第6学年	体験的な学習や、ICT機器などを活用した学習を通して、興味をもって自分から取り組もうとする力を育てる。	・既習の知識を生かした体験の場面を設定したり、ICT機器を自分で操作したりすることで理解を深め、興味関心が高まるようにする。	③⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用では、学習に対する意欲の向上につながっているため、今後さらに調べ学習や文書作成などの機能を使いこなせるようにさせたい。 係の仕事や委員会活動などで、自分の仕事に対する自覚はみについているので、今後今までにない活動に対しても意欲的に行動できるようにしていく。 今後もコロナ禍であっても、適切な人との距離やコミュニケーションに関して継続的に支援していく必要がある。 学年会では、協議事項の時間配分が計画どおりに進まず、時間内に終わらないことがあったので、内容を1～2項目に絞って協議していく。
	一人一人の発達段階に応じた学習と活動を通して、「できた」「分かった」などの成功体験を積み重ね、主体的に取り組む態度を育む。	・児童の学習意欲を高められるように、個に応じた教材教具の活用や、板書や発問の工夫を行う。また、学習の評価を通して授業改善をしながら、児童できた喜びを感じる体験を重ねるとともに、学年・学級内での役割や、小学部最高学年としての役割を意識して、自力行おうとする気持ちを育てる。	②④	A	
	友だちや教師とかかわる楽しさを感じながら、コミュニケーション能力を高め、社会性を育てる。	・挨拶や言葉遣い、人との距離感などについての学習を継続的に、「適切なコミュニケーション能力を育む」ことで、人とかかわることの楽しさを感じることができるようにする。	⑨	A	
	学年職員間の諸会議においては、終了時間を明確に設定するなど会議の効率化を図り、教材準備や児童の情報共有の充実に努める。	・会議の資料を事前に配布し、連絡事項は書面で伝えるのみ、協議事項においても時間配分を行い、必要ないものは省略していく。決定事項や議事録は学年全職員で共有し、共通理解のもと児童の支援にあたるようにする。	②	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
小学部・なのはな学級	個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対する意識を育てる。	・児童の身体全体の動かしやすさ・動かしにくさを共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れるとともに、体操の際は、言葉かけをしながら、身体の部位にふれ、ボディイメージがもてるようにする。	①②	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握し、興味・関心を引き出す工夫をしながら学習支援を進めてきたが、選択場面では児童が選びやすいようにさらに分かりやすい物を提示していく工夫が必要である。 ・今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、他の児童の支援に移る際には手指の消毒または手洗いを行うようにしてきた。感染予防の観点からも次年度も継続して実施していく必要がある。 ・児童の情報の連絡、相談を適時行いさらに共通理解を図っていき、また、児童への支援方法の共有をさらに行っていく必要がある。
	個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、自分の感情や意思を周りに伝えることができるようにする。	・五感を使った活動に繰り返し取り組みながら、自ら行おうとする気持ちを引き出す。 ・豊かな言語環境を心がけ、表情や発声等で意思を表出した際は言語化してフィードバックし、表出する喜びを味わえるようにする。 ・選択場面を設定し、写真や実物等分かりやすい物を提示して選びやすくする。	①②③	A	
	児童にとってよりよい環境設定や適切な支援が行えるようにする。	・保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、それぞれのリハビリ担当者、外部専門家(PT/OT/ST)との連携を図る。	⑩	B	
	児童の情報や教材教具の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。	・児童の情報の連絡、相談を円滑に行ったり、作成した教材教具の共有を適宜行うことで、効率的且つ業務のスリム化を図る。	⑳㉓	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
中学部	自分の目当てや見通しをもち、初めてのことに挑戦しようとしたり、粘り強く取り組んだりすることができるよう、各教科等の授業で得た知識を相互に関連付けて次の学びや生活に活用する力を育成する。	・個々の発達段階や特性等の実態把握に基づいた学習グループの編成や教科指導を行うとともに、各授業の単元構成に教科等横断的な視点を取り入れる。	①⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等横断的な視点を取り入れた授業が増えてきたが、さらに教科や学年を超えた組織運営の改善が必要である。学部の実情や生徒たちの姿と指導内容を見比べ、関連付けながら、効果的な年間指導計画等の在り方について、全職員で積極的に意見を交わしていきたい。 ・生徒が主体的に判断したり表現したりする機会を一層設ける必要がある。指導の手立てや評価方法等の工夫を継続的にを行い、学習活動に対する生徒の意欲を引き出していきたい。 ・昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響により他学部や他学年との交流、対話をする場が大幅に限られてしまった。ICT機器の活用で可能な限り、交流や対話の場を設けていく。 ・ICTの活用により、会議のスリム化、ペーパーレス化や進路指導のオンデマンド研修を行った。全職員がより効率的に業務を進められるよう、幅広く意見を聴きながら働き方改革を進めていく。
	できることに自ら取り組もうとするよう、既得の知識や技能を活用しながら学習課題に取り組んだり、自分の役割を主体的に遂行したりする力を育成する。	・実際のかつ具体的な活動に思考・判断・表現の機会を設けながら、日常生活や将来の職業生活に結び付いた知識や技能を習得できる授業実践を行う。	③⑧	B	
	同学年や他学年と一緒に活動し、対話をとおして共に考え、学ぼうとする望ましい人間関係や協力して活動できる力を育成する。	・適切な自己肯定感や対人関係構築に必要な学習を行うとともに、ICTを効果的に活用し、感染症対策を徹底しながら異学年の生徒が交流できる指導形態の工夫を行う。	④⑥	B	
	学部会等の諸会議や研修を、毎回勤務時間内に終了する。	・会議においては事前に協議事項の整理と資料の事前配付を行う。研修においては計画段階で内容や時間配分の検討を行う。両者とも開始時に終了時刻を明確に示す。	⑫	A	
中学部第1学年	自分の目標や見通しをもち、初めてのことに挑戦していくとともに、各教科等の授業で学んだことを関連付けて、日々の生活に生かせる基礎的な学力の向上を図る。	・個別の指導計画のもとに、生徒の実態を考慮してスモールステップにより学習を進めていき、生徒が「分かった」「できた」という達成感を得られるようにする。また、各教科等の授業における生徒の実態や課題を共有し、教科間で関連した学習内容を行えるようにする。	①⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の日常的な課題、各教科の指導計画を踏まえ、生徒個々の生活に結び付く目標や学習内容を検討していく。 ・作業学習では、製品作りの技能だけでなく、どうして働くのか、仕事の喜び、相手(客)がいることなどについても学習で取り扱っていく。 ・各学年・作業班で、生活態度や作業態度、コミュニケーションなどについて統一した目標を共有し、他学年の教師や生徒と、直接的・間接的に関わる機会をもち、年上の人への言葉遣いや接し方について学習する機会を設ける。 ・学年内での情報共有を、速やかに伝達できる手段を検討する。
	日常生活における身の回りの事や、自分の役割や仕事に対して、自ら取り組もうとする意欲を高め、基本的な生活習慣の確立を図ったり働くことへの関心を高めたりする。	・教師間で基本的な生活習慣における実態や課題を共有し、共通した支援を行えるようにする。 ・クラス内での係活動や作業学習での仕事に自ら取り組めるよう、活動場面や内容を具体的に提示し主体的に行えるようにしたり、職業に関わる見学や体験の場を設けたりして、働くことや社会生活について関心をもてるようにする。	②⑨	B	
	友だちや他学年の生徒、教師と一緒に活動する中で、対話をとおして挨拶や返事の仕方、適切な言葉遣いなどを覚え、それらを生かしながらコミュニケーション能力の基礎を育む。	・学級活動や作業学習などの場面で、意見交換や報告場面を設定し、人との正しい関わり方や意思の伝え方を示す。そして、その状況と一緒に振り返ることで、適切な方法に気付き活用できるようにする。また、個に応じた表現方法(言葉、身振り、サイン、補助具の利用など)を取り入れ、生活の中で活用していく。	③⑧	B	
	学年会を時間内に終わるようにするとともに、学年やクラスでの業務分担を整え、業務を円滑に遂行できるようにする。	・会議においては事前に協議事項の優先事項を整理し、資料の事前配付を行い円滑に進行できるようにする。各教員の仕事量を考慮し、業務分担の調整を図ったり協力しやすい環境づくりを行ったりする。	⑫	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
中学部第2学年	自分の目当てや見通しをもちながら日々の学校生活を送ることで、「やってみよう」という気持ちを育みながら、より実践的な学力の育成を図る。	・学習内容や目標について生徒が見通しをもつことができるよう、本校の板書についてのガイドラインを参考にしながら板書を工夫したり、個に応じた提示の仕方を工夫したりする。各授業においては、基礎・基本の学力を活かしながら日常生活に根差した内容を行えるようにする。	①⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容、目標については、毎時の授業の最初に板書を見通しをもって授業に取り組めるように提示の仕方を工夫していく。 ・学んだ知識・技能を実践的な授業をいかに多く設定し、取り組んでいくことが課題である。 ・作業学習や委員会活動など他学年の生徒や教師との関わりを設け、その中で言葉遣いや挨拶をする機会を多く設ける。 ・仕事の分担では、教材の準備において担当の負担になることがあったので、学年やクラスで更に担当を細かく決めて進めていく。
	学校生活の中での「わかった」「できた」を増やし、各授業や係活動等で達成感や自己肯定感を感じられるようにすることで、自ら取り組みとする態度を育成する。	・一人ひとりのできることを増やし、できたときには称賛したり、感謝の気持ちを伝えたりするとともに、身に付いた知識や技能を活かせる学習場面や日常の生活場面を設定する。	③⑧	A	
	「挨拶」「返事」「言葉遣い」「他者との適切な距離感」を意識して生活することで基礎的なコミュニケーション力の向上を図る。	・生活年齢を考慮した中学部生として相応しい態度で生活することができるよう、日々の生活の中や各授業時間で挨拶や返事、言葉遣いについての意識や意欲を高めるとともに、委員会やクラブ活動では他学年の生徒との交流の場面を積極的に設定する。	④⑥	A	
	学年会の時間を50分以内に終わることができるようにするとともに、学年間やクラス間で教材準備や学級運営にかかわる仕事の分担を行い、業務を円滑に遂行できるようにする。	・学年会では、協議事項を円滑に進められるよう、事前に回覧が可能な資料や文書については予め周知や共通理解を図るとともに、仕事分担の調整を図ったり、協力しやすい環境づくりを行ったりする。	②	A	
中学部第3学年	個々の発達段階や特性に応じた学習指導の充実を図ることで、生徒が目標や見通しをもって様々なことに挑戦しようとする力、授業で得た知識を生活場面で活用する力を育成する。	生徒一人一人の特性や発達段階について個別の指導計画等を十分に活用し共通理解を図る。また、将来に向けた課題の共有化を図り、生徒の課題や手立て、評価についての意見交換を活発に行い、より適した支援に取り組んでいく。	①⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学習で、発達段階に応じて細かくグルーピングをしているが、状況に応じて適宜移動を行い、常に最適な状態で授業に取り組めるようにする。 ・単元終了後に、学年会やアンケート機能等で、授業について職員間で振り返りを行う時間を設け、生徒の課題の共有を継続して行う。 ・自己肯定感を育むには時間がかかったり、因果関係が分かりにくかったりするので、それぞれの生徒について具体的ななかかわり方や支援の方法などを研修する時間を設ける。 ・他学年との交流はクラウドの有効活用を行い、リアルタイムの交流だけでなく、オンデマンドで他学年の写真を見たり活動記録が見えたりする環境を整える。 ・学部集会は他学年との交流の場であり、先輩や後輩を意識できる活動の一つであるので、オンライン等で定期的に行う必要がある。 ・学年会ではクラウドの有効活用を行い、検討事項以外の確認事項については、アンケート機能等で代替し、会議時間の短縮を図る。
	様々な体験を通して自己の特性や課題を知り、自己肯定感を育むことで、できることに自ら取り組みとする態度を育む。	学習場面や各行事を通して、生徒が自分で考えて行動したり、振り返りをする機会を多く設定したりする。成功体験の積み重ねができるような環境づくりに努め、自己肯定感を育めるようにする。	③⑧	A	
	同学年や他学年と一緒に活動する中で、人とかわりあう際のルールや役割が分かり、互いを思いやり、協力しながら生活する力を育てる。	係活動や作業学習の場面で、話し合い活動や協力して活動する場面を設定し、集団でのルールや助け合う気持ちを育てる。また、ICTを効果的に活用し、密にならないような交流場面の工夫を行う。	④⑥	B	
	学年会は毎回60分以内に終了する。	生徒の情報交換や、連絡確認事項の共有を適宜行ったり、会議前には資料や文書をあらかじめ回覧、配付を行ったりすることで、会議時間の短縮を図る。	②	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
高等部	将来の生活を具体的にイメージできるよう、系統性を踏まえたキャリア教育の充実を努め、自分から「やってみよう」という挑戦する態度や働く意欲を育てる。	・職業科や作業学習、校内・現場実習などをとおして、ワークキャリアの一層の充実や挑戦する気持ちの育成を図るとともに、卒業後に主体的に生きるために必要なライフキャリア(余暇の過ごし方や金銭、時間の使い方についての学習など)の充実を図る。	④⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の生活イメージと働くこと、金銭、時間、余暇等が、どうつながっていくか、また、何のために学んでいるかが分かり、学習(挑戦)していけるよう支援していく必要がある。 ・自己理解といった点で、どこで自分の力を発揮できるか、どこをどう改善したらよいか考える力を育てることが課題。さらに、生徒自身の自己理解、教師側の明確な実態把握からの適切な目標設定ができるようにしたい。 ・適切な人とのかかわり方、生活習慣、ものの管理の必要性と意味が分かり行動することが課題。なぜこれらが必要なのか、大切なのか、その意味を生徒にしっかりと伝えた上で支援していく必要がある。 ・主任チーフ会の設定が月によって計画的に設定できず、検討内容の提示が遅くなってしまうことがあった。他の会議同様、主任チーフ会の設定日を計画的に進める必要がある。
	生徒の自己肯定感を高めながら、自ら課題を見つけ、解決するために必要な思考力や判断力を育てる。	・個々の困難さに着目し、適切な目標設定のもと、自立活動の時間の充実を図り、自立活動の視点や他学部との系統性をもって教科指導に取り組む。	②③④	B	
	地域社会の一員として、充実した生活を営むことができるように、望ましいかかわりや知識、ものの管理等、生活習慣の形成を図る。	・社会人として必要な挨拶、返事、報告、マナー、身だしなみ、自分のものの管理などが身に付くよう教師が模範となる意識をもち、学校生活において実践する。	⑧⑩	B	
	会議の効率化を図り、業務のスムーズ化や教材研究の時間の充実を図る。	・必要に応じて主任・チーフ会等を設け、検討事項や周知する内容等の共通理解を行った上で、学年会、コース会、学部会を進めることで、業務の効率化と教材研究の充実を図る。	②	A	
職業自立	卒業後の生活について具体的なイメージが持てるように、系統性を踏まえたキャリア教育の充実を図り、主体的に進路を自己選択することができる態度や意欲を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携を密にとり、校内・現場実習など体験型の学習の充実を図ることで、生徒が望ましい「勤労観・職業観」を育み、進路に対する関心・意欲を高め、日々の学習に置いて主体的に進路選択することができるようにする。 ・充実した生活をするために必要な金銭感覚、余暇の過ごし方、また衣食住に関する知識・技能を国語科、数学科、職業科、家庭科の時間に重点的に取り組み、一人一人の発達課題や障害の特性、心身の状態や実態に応じた小グループ編成で学習環境を整え、自立活動の視点を踏まえた指導を行う。 	⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内実習・現場実習においては、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、実施が危ぶまれたが計画通り実施できたことで、進路の見通しを持ちながら学校生活の活動へ反映することができた。今後は、より具体的にどのような場面をどのような形で反映していくかが課題である。 ・消費者教育を実施した。同年齢の事例から消費者の権利や相談窓口について具体的に学ぶことができた。また近年では、SNS等を悪用した悪徳商法もあるため、生徒指導の側面からも有効だったが、どのように継続していくかが今後の課題である。 ・自立活動では、ロールプレイングを活用した実践的な学習を実施した。実際に生徒が直面した事例も取り上げ、ネガティブな出来事や物事の捉え方、考え方をポジティブな思考に変えて、自身の行動も変えていくことを意識付けていくことで日常生活でも、生徒たちがお互いにポジティブに捉えようと声を掛け合う場面も見られるようになってきた。また、一過性にならないように継続していくことが必要である。 ・作業学習においては、感染症対策のため、作業内容を精選しながらも、洗車作業においては、年間30台を洗車することができた。また、洗車については、どのタイミングで車内清掃に切り替えるのが難しかったため、季節や天候等も考慮し、考えていくことが必要である。 ・meet会議で、3、4コースでの全体の会議では授業確認、教員・生徒の動き等を確認できてはいるが、4コースとしてはコース会議に日程調整が合わないこともあったため、別日での設定など考える必要があった。また、それに伴い4コース内のスケジュールの擦り合わせが不足していることも反省に上がったため、次年度は、事前の日程調整等をふまえ事前に提示できる資料などを徹底していきたい。
	生徒が自己肯定感を高められるよう、日々の学習活動において成功体験を繰り返すことで、自己課題の問題解決力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、係活動、清掃活動、学年内のチーム活動等とおして、生徒が主体となって活動を計画実施する学習を設定し、学期に1度それぞれの生徒の課題達成状況から見直しを行い、適切な課題設定をその都度設定する。 ・作業学習、校内・現場実習などにおいて、「①目標設定→②学習→③反省→④改善」を行い、生徒自身にフィードバックできるよう、タブレット端末などを用いて記録した動画を活用し、自己評価をしたり、課題を明確にしたりする場を設定し、改善するためにどうすればよいか話し合うようにする。また、サービス班の受注業務においては、年間100件の受注達成を目指す。 	②⑧	B	
	自己の個性を発揮し、様々な人々とのかかわりの場や活動の充実を図るとともに、社会生活に望ましい態度や知識・技能を身に付け、自己管理する力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事、身だしなみ、言葉遣い、マナー、食生活、生活習慣等について、国語科、数学科、家庭科、職業科などの教科学習や個別指導において重点的に取り組み、学校と家庭でお互いの役割を確認し、連携し共通理解を図り支援を行う。 ・自分の持ち物や提出物、金銭についての管理の仕方について身につける。 	⑥⑭⑱	B	
	定例会議以外で、クラウド機能を生かした授業の打ち合わせ、リモート会議を活用し、業務のスムーズ化を図る。	・事前に授業の担当割り振りを行い、MEET会議やgoogleドライブ等で検討事項の精選や会議時間の終了目標時間を予め設定し、効率化を図る。	⑳	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
職業基礎	将来の生活を具体的にイメージできるように、キャリア教育の充実に努め、社会生活に必要な基礎的な知識・技能・態度の育成を図り、働く意欲を育むために苦手な活動にも挑戦する環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な衣食住に関する基礎的な知識・技能を職業科や家庭科の時間に重点的に取り組み、実態に応じたグルーピングで学習環境を整え、自立活動の視点を踏まえた实际生活に生きる指導を行う。 ・進路指導部と連携しながら、一般就労(一般企業・特例子会社)・福祉的就労の基礎的な知識や働く意欲を育むとともに主体的に進路選択できるよう、実習の充実に図る。また、特例子会社や福祉施設への校外学習を年間1回計画実施し、卒業生の働いている現場を見学することで、進路選択の一助とする。実習先で提示された課題について、得意なことはさらにステップアップし、苦手なことはスモールステップでとりくめるように事後学習の充実に図る。 	③④	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職業科・家庭科では、単元に応じて、コースを超えてグルーピングしたことで、コース間の授業調整が難しくなったことが課題である。自立活動話し合い活動では、課題解決のための意見交換の場として、縦割りのグルーピングでの授業実施方法・授業計画が今後の課題である。 ・校外学習について、今年度実施しなかった。次年度に向けて、進路学習から卒業後の余暇活動の在り方について、校外学習の目的と内容の検討が今後の課題である。 ・作業学習においては、作業班の作業種や職員数については、学期毎の調整時期や方法の検討が必要である。 ・現場実習・学校・学部行事の制約の中で、各教科・領域における年間指導計画の見直し、優先すべき単元や活動、内容の精選が今後の課題である。 ・社会生活に必要な基礎的なコミュニケーション能力について、作品販売について、班によっては製品を製作しない班もあるため、学習の発表の場の検討が必要である。販売は3回実施した。 ・トレーニングでは、特体連等の大会に向けての時間確保の在り方が今後の課題である。 ・会議の資料について、Teamsの活用で、データの保管場所についてはフォルダの整理と共通理解が今後の課題である。
	友だちや教師とのかかわりの中で、好ましい人間関係を育み、自己肯定感を高めるとともに、自己選択や意志決定し自律する力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習において、生徒の自己肯定感を高めるために、生徒の実態や特性に応じた適材適所の作業班編成を行い、責任をもって活動できるよう生徒同士でチェックシートを活用して、指摘・確認・反省・改善ができるようにする。上級生と下級生との学び合いの場を設け、関わり合いの中から自己肯定感を高められるように指導する。 ・学級活動、係活動、清掃活動、学年内のチーム活動等とおして、生徒同士話し合いの場を計画的に設定し、課題解決に向けて、生徒同士が意見を交わし、決定する課題設定を計画する。決定し、実行した内容について、振り返りの場を設けることでPDCAサイクルの基本となる力を育てる。 	⑥⑧		
	豊かな生活を営むことができるように、対話を通して、社会生活に必要な基礎的な知識及び望ましい態度を生徒同士で気付けるような場を設け、その中から望ましい生活習慣の基盤作りの力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な「挨拶」「返事」「報告」「連絡」「相談」など、基礎的なコミュニケーション能力を育てられるよう、作業学習・職業科の時間にその機会を計画的に設定する。また、作業製品販売計画において、コースとして年間3回以上の販売機会を計画し、実施する。上級生から下級生に対して、態度面に関する助言の場を設定し、生徒間でお互いに基礎的なコミュニケーション能力の工場を図る。 ・トレーニングを通して、10分間一定のペースで走り続けられる体力の向上をはかる。自立活動では、話し合いやディベートの授業でお互いに意見交換することに慣れ、日常生活全般で必要とされる情報交換や調整能力の基礎を養う。 	⑥⑯	B	
	作業担当者会・3・4コース会・3コース会の会議では、会議終了の目標時刻を定め、時間内で協議が進むように会議前に関係職員との意見交換や共通理解を進め、会議の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・協議・検討事項の内容・目的を明確にするために、会議を分けて設定する。担当者間の打ち合わせを短時間で、複数回設け、意見交換などの場を増やすように設定する。会議進行に際しては、案件の優先順位・範囲を決めて、資料として分かりやすいように提示する。 	⑦⑧	A	
				②	
生活自立	将来の生活をイメージできるようにキャリア教育の充実に努め、個に応じた学習や体験的な学習などとおして、様々な課題に自ら挑戦しようとする態度や働く上での基礎的な知識・技能の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟度等に応じたの学年ベースのグループを編成をしたり、生徒の特性に応じた自立活動の区分ごとの縦割りグループの編成をしたりして、個に応じた細かい指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。 ・理科授業や英語活動などを生徒が興味、関心がある内容で構成した体験的な学習を実施し、進んで実験や活動などの課題に挑戦し、知識の習得を図る。 	⑥⑧⑮	A	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じたグループ編成では、教科によって習熟度に差が生じた編成も見られた。生徒の理解力向上が見られた際は、途中でグループ編成を変更していくことも今後必要であると感じた。 ・おもしろ理科先生などの体験的な学習では、若干の生徒は主体的な学習に取り組むことができず、受け身的になってしまった。全員が能動的に取り組めるように、また、更に自ら思考判断できるような課題を設定していくことが必要である。 ・作業学習などの授業開始時刻が遅れる日が多少あった。5分前行動を行い、全員が自分から開始時刻を守ろうとする意識をもって取り組ませていきたい。 ・教科ごとに色分けしたファイルを使用し、自ら整理して管理できるように設定してきたが、種類が多くなってしまったので、芸術教科などを一つにまとめることも必要である。また、進路に向けて返事や挨拶、報告が、時折、声量が小さかったり、必要以上に大きかったりすることが見られたため、場に応じた声量で言うことができるように、ロールプレイングなどの場の設定をしていきたい。 ・予め各教科チーム間で議題を検討する機会を設け、時間内にコース会を終了することができるように今後も実施していきたい。
	生徒の自己肯定感を高め、各活動に時間を意識しながら進んで取り掛かり、自分の課題に対して最後までやり遂げる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の一連の活動(着替え、個別学習、トレーニング、朝の会)や各授業において、開始時間を守り、集団でのルールを守りながら最後までやり遂げることができるように、タイマーやイラストや映像などの視覚的教材を示したり、個に応じた教材を提示したりしながら定着を図る。作業学習においては、1工程ごとに拡大した手順表を提示することで一人で取り組んだり、作業中頻繁に教師が称賛することで、自己肯定感を育てるようにしたりする。 	②④	B	
	地域社会の一員として生活を営むことができるように、社会生活に必要なコミュニケーション力や自分の物の管理能力などの向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から場に応じた丁寧な言葉で挨拶、返事、支援依頼、報告等の発信を相手に聞こえる声量で伝えたり、各授業で使用したプリントなどを教科ごとにファイル管理したりできるように、場面を設定した繰り返しの指導で定着を図る。 	③④	B	
	コース会の効率化と教材やデータの共有化を行い、業務のスリム化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・コース会の前に各学年の正担任間や各教科チームで議題を提示し、予め検討する機会を設ける。 ・教材室を作業種や教科ごとに教材を配置したり、教材のデータフォルダを作成したりして、瞬時に必要な教材を探して使用できるようにする。 	②③	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
生活基礎	将来の生活をイメージできるように、キャリア教育を通して、主体的に物や人へかかわろうとする意欲を高め、自己決定、選択する力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 進路先の状況を踏まえながら、月2回授業内容の検討し、支援に対しての評価及び考察を行う。生徒に活動内容を提示する際は、自ら意思決定しやすいようにいくつかの選択肢から選ぶ活動を多く設定する。 学習形態を、縦割り、学年コース、学習内容に応じて柔軟にグルーピングし、個に応じた支援を効果的に行う。 	⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活単元学習の買い物やごみの分別など繰り返し学習していく内容と、卒業まで段階的に様々な経験ができるよう設定していく内容と、年間指導計画を再度見直し、精選していく必要がある。 生徒同士の相性も考慮したグループ編成を行ったが、どの学習もほぼ同じようなメンバーになってしまった。今後は教員配置の工夫をし、できる限り習熟度や課題に応じたグループ編成ができるが良い。 コミュニケーション面で、生徒とのやりとりのサインが教員によって違うことがあった。生徒の混乱を招くので、共通理解が必要。 授業の相談や準備など、担当者間で意見を出し合ったり準備をしたりする時間が足りなかった。コース会の後など、場の設定があるとよい。
	基本的な生活習慣の確立を目指して成就感、達成感を多く経験することで自己肯定感を高め、最後までやり遂げる態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 他者の支援を受け入れながら、20分以内で着替えをしたり、持ち物の管理をしたり身辺処理を行うことができるよう、スモールステップで取り組む。 	②④		
	周囲への適切なコミュニケーション手段を獲得し、生活の中で活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で、他者への伝達手段を発語だけでなく、必要に応じてICT教材やカード、サインなどで伝えられたり、他者からのかわりをスムーズに受け入れることができるよう、信頼関係の構築や繰り返しの指導で定着を促す。 	②③	B	
	会議の持ち方等の検討等、業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 会議は、内容の優先順位を見極めるとともに、予め個別に確認できることを聞き取り方向性を確認しておく。 	②	A	
	個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対する意識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の身体全体の動かしやすさ・動かしにくさを共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れるとともに、体操の際は、言葉かけをしながら、身体の部位にふれ、ボディイメージがもてるようにする。 	①②	A	
高等部・なのはな学級	個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、自分の感情や意思を周りに伝えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 五感を使った活動に繰り返し取り組みながら、自ら行おうとする気持ちを引き出す。 豊かな言語環境を心がけ、表情や発声等で意思を表出した際は言語化してフィードバックし、表出する喜びを味わえるようにする。 選択場面を設定し、写真や実物等分かりやすい物を提示して選びやすくする。 	①②③	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心して活動に取り組めるようにするためには、継続的な支援が必要になる。一人一人に丁寧にかかわる必要がある分、言葉かけの仕方等も含めた支援方法の共有が課題である。 新型コロナウイルス感染症対策として、できるだけ教材の共有をしないように配慮したため、教材準備にかかる時間が多くなる場合もあった。今後は、感染症対策を行いつつ教材教具を効率的に活用できる方法も検討していく。
	生徒にとってよりよい環境設定や適切な支援が行えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、それぞれのリハビリ担当者、外部専門家(PT/OT/ST)との連携を図る。 	⑩	B	
	生徒の情報や教材教具の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の情報の連絡、相談を円滑に行ったり、作成した教材教具の共有を適宜行うことで、効率的且つ業務のスムーズ化を図る。 	②③	B	